

公刊にあたって

皆様のご協力のおかげで図説「わが国の慢性透析療法の現況（2008年12月31日現在）」（以下「現況」）を速報としてここに発行する運びとなりました。

最初に、本調査は全国の透析施設や透析従事者の方々の熱意に支えられ、多忙な日常診療のなか貴重な時間を割いてご協力頂いた皆様のお陰であることに感謝申し上げます。

本年も例年通り、日本透析医学会の非会員施設も含めた多くの施設のご協力を頂き、速報である図説「現況」の報告をさせて頂くことが出来ました。

また、本年も昨年と同様に本図説発行後も、さらにデータの質を上げるべく、問い合わせをさせて頂きたいと考えています。より正確なデータを基に例年通り、さらに詳細なデータを加えCD-ROM版として年末に配布させて頂く予定です。

「現況」調査の回収状況、および新規調査についてご報告します。

「現況」調査は例年通り日本透析医学会施設会員施設に加え、地域協力委員の先生方などのご努力により、非会員施設、新規開設施設も対象施設として行われました。2008年末の対象施設は4,124施設で、前年より26施設増加しました。締め切りは例年通り1月末とさせて頂きましたが、4月17日を最終期限として、地域協力委員の先生方や事務局から、FAXや電話などで可能な限り回収率を上げるべく努力を行いました。その結果、最終的に施設調査（シートⅠ）にご協力頂いた施設は4,072施設（98.7%）であり、昨年（98.8%）とほぼ同等の回収率を達成することが出来ました。また施設調査（シートⅠ）と患者調査（シートⅡ～Ⅳ）の両方にご協力頂いた施設は3,968施設（96.2%）に達し、昨年（94.8%）、一昨年（93.4%）より高い回収率を達成することが出来ました。これは本年からデータの送付媒体にUSBメモリーを使用したことも大きく貢献しているものと考え、次年度以降も同様に行う予定です。

この結果、回収媒体の比率は、電子媒体（USBメモリー、FD、CD-R）による回収が3,234施設（81.5%）と、昨年（75.5%）から一挙に増加し、データ処理がより正確に、かつ簡素化が達成されました。

2008年末の調査項目では、昨年に続き透析液水質管理状況に関する施設調査、その他統計解析に必要なアウトカム項目や補正に必要な項目、大腿骨頸部骨折の実態調査に加え、透析量の指標、ダイアライザや透析液、バスキュラーアクセスの種類、透析量の指標項目、透析前後のカリウム、ナトリウム、重炭酸イオンの調査を新たに行わせて頂きました。大腿骨頸部骨折の有無を昨年と2年続けて調査する事によって、昨年1年間の新規発症例が判明するためです。発症のリスクに関する解析を行い、一部を本図説に掲載いたしました。また、2006年と2007年末に行わせて頂いたC型肝炎に関する調査・解析結果も掲載しております。

ダイアライザや透析液は2002年以来の調査であり、透析量調査の結果とともに、どのような透析方法が死亡などのアウトカムに影響するのかを今後解析するのが目的です。数年後にはその結果をご報告できるものと考えています。本図説では、その実態の一部を掲載しております。

また本年は特に、締め切りから集計・解析までの時間的猶予が少なく、細かなミスが有る事も予想されますが、年末に配布する予定のCD-ROM版には、6月以降の問い合わせ結果を反映させたより正確なデータベースによる帳票や解析結果を掲載させて頂く予定です。この点ご了承の程、お願い申し上げます。年末のCD-ROM版発行に向け、より正確なデータを供すべく努力する決意です。

尚本作業に伴い、本現況（速報）と年末に配布予定のCD-ROM版の数値が若干異なることをご理解頂きたいと思います。また、本現況の記載内容は、昨年の現況（速報）との比較で解説されており、昨年のCD-ROM版との比較で無いことも、併せてご理解頂きたいと思います。

最後に、現在統計調査委員会が取り組んでいる事業をご紹介します。

従来から、毎年膨大なデータを収拾しているにも拘わらず、十分な解析が行えず、会員諸氏のニーズにも応えられていない事が指摘されてきました。この様な状況を打破する目的で、新たな解析システムの構築を目指し、(株)日本科学技術研修所と契約し、解析結果の一部を昨年末に発刊したCD-ROM版に掲載しました。

さらに昨年は本委員会を大きく変革しました。理事会の承認を得、統計調査委員会内の組織として正式に「統計解析小委員会」(井関邦敏委員長、中井 滋副委員長)と「地域協力小委員会」(渡邊有三委員長、篠田俊雄副委員長)を設けました。解析小委員として、新たに解析に堪能な若手会員を公募した所、多数の応募が有り、この内5名を選ばせて頂きました。地域協力小委員も若干名増員し、データ収集から解析まで、より盤石な体制となりました。実際の会合においても解析小委員会を別個に開催し、解析のスキルアップを図っています。これに伴い、懸案であった会員諸氏から「公募研究」を募り、多数の応募から、5題を選択させて頂き、各応募研究者に2名ずつ解析小委員がサポートしながら共同研究を行う方策を確立しました。従来から行ってきた他の委員会やガイドライン作成のための解析作業を含めた「委員会研究」にも、これら若手委員が参画し、スピードアップに繋がるものと期待しています。

さて、これらの解析に用いるデータベースの検証が懸案となっていましたが、地道なデータの突合作業が並行して行われ、それ程大きな誤差の無い事がほぼ確認されました。作業が完了すれば、より正確なデータベースでの解析が可能となります。

長年に渡って積み重ねられてきたデータ(宝)の山を解析し、国内外に発信し、わが国の慢性透析医療の更なる向上、ひいては慢性透析患者の生命予後やQOLの改善に資したいと、統計調査委員会一同、夢を募らせている所であります。これが引いては、本統計調査の意義を高め、さらに質の高いデータ収集にも役立つものと期待しています。

以上、高い回収率で図説「わが国の慢性透析療法の現況(2008年12月31日現在)」を公刊できるに到りましたのは、ひとえに会員をはじめスタッフの方々のご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げますとともに、統計調査委員会としまして、臨床に役立つ情報を出来る限りご提供できますよう、さらに努力しなければならないと考えております。最後に、統計調査にご協力頂いた皆様、ならびに全国の地域協力委員の先生方のご努力に深く御礼申し上げます。

社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会

委員長 椿原 美治